

## Higher Education Planning in Asia Forum 2016 参加報告

森 雅生 (情報活用 IR 室)

### 経緯

昨年夏に来学した香港科技大 IR 室ディレクターの Michael Fung 氏 (現 シンガポール労働力開発庁 政策グループ ディレクター) からのお誘いに応じ、4 月 14~15 日に豪州シドニーにある Newcastle 大学シドニーキャンパスにおいて開かれた Higher Education Planning in Asia Forum 2016 (HEPA Forum 2016) に参加した。

### Forum の目的と概要

HEPA Forum は、大学における経営やプランニングに関連する専門職者を対象とし、アジアにおける高等教育機関の特にプランニングに関する話題について相互に意見交換を行うことを目的としており、この立場から多様な広がりを見せる国際的視野を持った取り組みである。

今年の Forum は、「(機関における) 戦略形成とビジョンの浸透」というテーマで、基調講演 2 件、パネル講演 12 件 (1 件 10 分)、ディスカッション 5 件、の参加型の Forum であった。参加大学および参加者は次の通り。

国	大学数	参加者数
オーストラリア	20	31
香港	2	6
日本	2	2
マレーシア	1	2
ニュージーランド	5	5
中国	8	12
シンガポール	3	4
台湾	1	1

オーストラリアからの出席者が多かったため、オーストラリアにおける高等教育の文脈を前提にしたものであったことは否めない。

### 特に印象深かったもの

#### 1. 基調講演 1 “Broad Trends and Current Challenges in Higher Education”

世界的に見て比較的高等教育の質が高いとされるオーストラリアにおいても、国内では高等教育に対しては批判的に捉えられている (特に政府、政治家、行政) ”Higher education in Australia left behind”。それは、政府から大学に対する補助金等の削減の理由 (言い訳) の一つにもなっている。また、国内における就職難と学部卒の卒業後の就業率の低下がみられており、学生の社会適応力や、習得した知識技術の応用力の強化が認識されている。これは日本にも共通してみられる。

参加者には、大学の執行部またはそれをサポートする人々が多かった。この基調講演において、少ない資源で大きな成果を期待されているところは Planner の苦悩である、という講演者の発言に参加者は共感を得ていたようである。

2. パネル講演 “I want it now and I want to see it on this in this way”

オークランド工科大学の Assistant Vice-Chancellor Strategy, Student and Marketing の方の講演。事務職員や大学執行部が必要とする定量的データを PC のみならず、スマートデバイスで閲覧できるように開発した BI ツールの報告。概要レベルから少し凝った分析レベルのデータまで、可視化されて閲覧が可能である。メンテナンスは 2 人の専任職員が対応しているとのこと。日本の大学において多くの場合、この種の職員は任期付きで雇うが、オーストラリアでは技能の涵養や継承も考慮して、任期無しの職員を当てるとのことであった。

3. ディスカッション：“Where are we now? Our Institutional Maturity in Business Intelligence”

ここでは、大学内の IR に関連するデータウェアハウスや BI の活用について、大学の中の関心や理解、利用頻度についての意見交換を行った。

2014 年の HEPA 参加者に対し、参加者の所属する大学の BI 成熟度を 5 段階（Pervasive, Strategic, Focused, Tactical, Undeveloped）に分けて質問された調査結果をもとに、参加者の大学の現状についての議論が行われた。多くが Focused と Tactical のあたりに位置付くという意見であったが、進んだ大学も幾つか見られた（前述のオークランド工科大学）。

4. パネル講演：“Strategic Approaches to Rankings and Improving Performance”

海外からの留学生を多く抱える、オーストラリア、シンガポールおよび香港の大学は、ランキングによる入学希望留学生の変動に深い関心を持っている。ランキングへのデータ提出や被引用数の分析は、大学が対策できる数少ない手段であるとの認識があった。

5. 基調講演 2：“Shaping Strategy：Are universities a special case?”

元 Global Head of Income, Barclay Global Investors の John Bower 氏による基調講演。民間企業の組織経営の知見から、大学マネジメントへの示唆についての講演であった。総じて、政府からの予算縮小に対して、徹底的なコスト削減を提唱されていた。特に、教員は博士課程の指導に注力し、学部教育は教材のオンラインコンテンツ化を進め、反転授業を徹底することで、学部教育のコスト削減を図る可能性を示唆された。さらに、学生の学習指導への AI を導入や、教育成果の測定についてはデータサイエンスの活躍を期待するとの発言もあった。

まとめ

オーストラリアの高等教育文脈を強い背景とした HEPA ではあったが、米国の AIR と比較して、プランニングに関する講演や意見交換が多かった。文化的背景や社会制度の似た東アジアの国々の大学からの参加も多い。そうしたことを勘案すると、HEPA の方向性は、本学の情報活用 IR の向いている方向と同じと感じられた。定期的に参加し情報収集を行う価値のあるものだと思う。